

環境学習①

埼玉県三芳町にある「三富今昔村」で、江戸時代から続く循環型農業について学び、環境問題について考える環境学習を行いました。

語りべ館の見学

最初は三富今昔村の語りべ館に行き、里山暮らしの知恵や工夫の様子を見学しました。都会ではなかなか見ることのできない水車や井戸、うどを栽培するための「むろ」などを見学したほか、当時の暮らしの様子をそのまま残している古民家では、現代っ子にとっては珍しい昔ながらの玩具で遊んだり、今ではほとんど見られなくなった道具などの展示品を見たりすることができました。



三富新田についての学習

農業センターに移動して、三富今昔村の歴史に関する DVD を視聴しました。土地がやせていて水も乏しく、農業には不向きだったこの地で、どのようにして農業を行ってきたのかを学んだあと、小学校の屋上に上がり、三富新田の地割を見学させていただきました。屋上から見下ろすと、600m 以上におよぶ細長い区画の中に、住居や農作業小屋の周りには屋敷林・耕地・雑木林などが並んでいる様子が一目瞭然。屋敷林や雑木林は、防風林であると同時に、建築資材や「たい肥」を作るための落ち葉の供給源を兼ねていて、生徒は昔の人の知恵に感心していました。雑木林は、のちほど「落ち葉かき体験」を行う舞台でもあります。



落ち葉たい肥農法

三富新田を見学したあとは、現地の農家さんから、この地域の農業について直接話を伺いました。落ち葉を集めて2年ほど寝かせることで、たい肥を作ることができるそうです。生徒たちは、自分の背丈ほどの高さまで積みあがった落ち葉の山や、2年間で見た目がすっかり土のように変わった落ち葉を見て驚いていました。質疑応答の時間には、農業や落ち葉たい肥について盛んに質問が飛び出しました。



落ち葉かき体験

最後に、雑木林で落ち葉かき体験をしました。竹でできた大きな熊手で落ち葉をかき集め、「ハチホン」と呼ばれる大きな竹籠の中に入れていきます。どちらも、作り手となる職人さんがほとんどいないため、貴重な道具だそうです。



籠いっぱいになったら、上に乗って踏み固めていきます。籠を横に倒して転がしながら運んでいくため、しっかりと踏み固めないと、せっかく集めた落ち葉がこぼれていってしまいます。



はじめは広い一面が落ち葉で埋め尽くされている光景に気が遠くなりそうでしたが、なん

とか順調に作業を終えることができました。落ち葉かき体験が終わったら、各グループで簡単な振り返りをしました。どのグループの生徒たちも、循環型農業の知恵に感心したことと、農家さんの大変さを実感したことを口にしていました。集めた落ち葉は、たい肥として現地の農家さんたちに使っていただきます。